

# どがながも 木田市です

## 石見銀山

## 世界遺産登録15周年記念

大田市ふるさと情報誌

# VOL.50

2022.9

石見銀山遺跡 世界遺産登録15周年記念事業  
～持続可能な石見銀山に向けて～





7月3日、大田市民会館で、平成19年7月2日に「石見銀山遺跡とその文化的景観」が世界遺産として登録されて15周年を記念した記念行事を開催し、約250人が参加しました。

主催者を代表し、梶野市長は、「5年後の令和9年は、世界遺産登録20周年、石見銀山発見500年、そして、重要伝統的建造物群保存地区選定40周年と、節目の年が重なることから、世界遺産登録の意義を再認識し、未来へ引き継ぐ機運を高めたい」とあいさつしました。

**第1部**  
土橋章宏氏講演会「世界に届ける思いやりの精神『いも殿さま』井戸平左衛門の遺したもの」

第1部は、大森の地に赴任され、飢饉の際にサツマイモ栽培を奨励したこと

で領民を救った『いも代官』こと、井戸平左衛門正明公を題材とした小説『いも殿さま』の著者である土橋章宏氏の講演。この小説は、ほかに知られていない井戸公のさまざまな功績を伝えるため執筆されたとのこと。今後は映像化に向けた取り組みも進めていきたいと述べました。



**第2部**

パネルディスカッション「持続可能な石見銀山に向けて」

第2部は、「持続可能な石見銀山に向けて」をテーマにパネルディスカッションを開催。

4人のパネラーがそれぞれ、石見銀山を未来に引き継いでいくための意見や考えを発表しました。大森地区では、昔から人づくりや地域づくりが育まれてきた経過があります。今後地元が中心となりながら、地域外や世代を超えた

さまざまな人が関わり、多様性をつくっていくことや地域の個性を教育に生かしていくことなど、今後に向けた持続可能な取り組みが提案されました。

**「記念行事を通じて」**

この行事は、市民の皆さんとともに登録15周年を祝うとともに、素晴らしい遺産を未来に引き継ぐためのヒントを見つめ直すきっかけとなりました。また、これまで地域と行政が積み上げてきた保全活用の取り組み成果を皆さんと共有することができました。5年後の世界遺産登録20周年や、石見銀山発見500年となる令和9年に向けての機運醸成につなげるとともに、世界遺産としてふさわしい「石見銀山の将来のあり方」について、市民の皆さんとともに考えていきます。

## 「石見銀山遺跡とその文化的景観」世界遺産登録15周年記念企画展

# 「銀の島とゆのつ」を開催します。

大田市内の3か所にて、企画展「銀の島とゆのつ」を開催します。本企画展では、温泉津の発掘調査で出土した資料を中心に、温泉津が港湾都市として繁栄していたことを物語る貴重な品々を展示します。会期は9月29日(木)～11月28日(月)です。

●石見銀山世界遺産センター・石見銀山資料館アクセス

**第1会場**

石見銀山世界遺産センター  
(大田市大森町イ1597-3)

【入館料】 一般310円・小中生150円  
【会期中の休館日】 10月25日(火)

【おもな展示品】  
長命鎖(明清時代の中国で流行した首飾り)の可能性  
がある飾り金具



**第2会場**

いも代官ミュージアム(石見銀山資料館)  
(大田市大森町ハ51-1)

【入館料】 一般550円  
小中生250円

【会期中の休館日】  
毎週火曜・水曜  
【おもな展示品】  
石敢当(沖縄・南九州でよくみられる魔除けの石造物)



**第3会場**

ゆう・ゆう館  
(大田市温泉津町温泉津イ791-4)

【入館料】 無料  
【会期中の休館日】 無休

【おもな展示品】  
絵唐津(茶懐石の器)・貿易陶磁

●ゆう・ゆう館アクセス



主催/島根県教育委員会・大田市・大田市教育委員会・NPO法人石見銀山資料館  
協力/大田市観光協会

**お問い合わせ先**

石見銀山世界遺産センター  
0854-89-0183  
(平日 8:30～17:15)



世界遺産センターHP

## シリーズ石見銀山⑤

# 『石見銀山学ことはじめVI銀』を刊行しました。

石見銀山とその周辺地域を分かりやすく紹介する概説書『石見銀山学ことはじめ』シリーズの最新刊『VI銀』を、7月に刊行しました。『VI銀』は石見銀山にとって最も重要な要素である「銀」がテーマで、本シリーズでも特別な巻として位置付けています。本書では、石見銀山の歴史に関することだけでなく、銀に関する自然科学や技術・鉱山の分野も取り上げており、幅広い内容となっております。

第1章「銀」とはなんだろう」では、銀の成り立ちや物質としての特徴、銀の用途を取り上げました。銀の採掘や製錬については、これまでに刊行した『ことはじめ』シリーズでも取り上げてきましたが、今回は銀の物質としての生成や、火山活動による銀鉱床の形成まで踏み込んでいます。銀の用途としては、石見銀山の銀が使われた可能性の高い銀製品や、古代オリエントを中心とした海外の銀製品を紹介しています。第2章「石見銀山の銀」では、石見銀山の銀が世界史にもたらした影響として、ヨーロッパの文献や古地図を基に、16世紀の石見銀山がどのように捉えられていたのかを解説しています。さらに、持ち出された銀の行方や、石見銀山に残る海外とのつながりを示す史料、日本国内における銀利用についても取り上げました。

第3章「現代の銀」では、現代における銀の用途として、工業製品を中心に紹介しています。銀は、現代では貨幣としての需要が減少しているものの、金属としての特徴を利用して工業を中心に利用されています。また、現代的な金属生産として「都市鉱山」について取り上げたほか、近代以降の日本国内における鉱山・鉱山業の衰退を、社会背景とともに解説しています。

本書はそれぞれの章・節がまとまった内容になっていて、さらに加え、コラム・トピックも充実しています。巻頭から順番に通読することもできますが、気になった部分から読んでいくこともおすすめです。

2017年から刊行の始まった『石見銀山学ことはじめ』シリーズも、2023年度刊行予定の『VII継』で完結します。最終巻まで、よろしくお願いたします。



▶ことはじめVI銀表紙

## 大野いとさんと島根・大田でノスタルジックジャーニー

# 月刊 旅色 にて大田市特集公開中!

大田市は、無料で読める電子雑誌を発行する株式会社ブランジスタメディア(本社:東京都渋谷区)と提携し、同社が発行する旅行電子雑誌「月刊 旅色」において特集記事を掲載しました。

ナビゲーターは、女優の大野いとさんです。

大田市の魅力が詰まった特集記事をぜひご覧ください!



旅色公式サイト



YouTube



# 金田郁也さん インタビュー



**プロフィール**  
群馬県出身。東京で就職後、筑波大学大学院に入学し、世界遺産学を専攻。2021年4月、住み込みで調査をするために大田市大森町にIターン。

文化財と地域住民の関わりについて研究に取り組んでいたところ、縁あって地域おこし協力隊員となり、大森町の石見銀山資料館を拠点に活動している。そんな金田郁也さんにお話を伺いました。

**●Iターンしたきっかけを教えてください**

地元の方がどのような石見銀山遺跡と関わってきたのかを明らかにするためにヒアリング調査が必要だったこと、またコロナ禍ということもあり、何度も行き来するよりも住み込みの方がいいのでは、と思い、後先考えずに移住しました。初めは半年ほどで調査を終え、つくばに戻って論文を書くつもりでしたが、こちらの生活が思いのほか楽しくて、「大森にもっと長くいたい！」と思い、秋から1年間休学し、修了を遅らせることにしました。

**●やりがいを教えてください**

地域おこし協力隊の仕事として、大森町を訪れる修学旅行生に向けての講話や町並みガイドをすることがあります。大学院生として調べていることも話しますが、やはり自分が暮らしているからこそ分かる大森町の魅力、町民の思い、普段感じる温かさ、また、この町を維持するための住民の地道な努力についても伝えることを心掛けています。町の歴史的背景も重要ですが、この町のことが好きで、誇りを持って暮らしている住民に対して興味を持ってもらえた時は、嬉しいと同時に私の勤めとしてのやりがいを感じます。

**●大田市の暮らしていて**

移住した当初は不安がありました。地域にはすぐに馴染むことができませんでした。引越して間もないときに知り合った方が、「集まりがあるからおいでよ」と食事会に誘って下さいました。まるで自分がずっとこの町にいたかのように接して下さって、「この町にいても

いいんだ」と不安が消えていったのを覚えています。あとは、町内の学童の子どもたちです。挨拶をしたらすぐにお友達。寛容な子どもたちにパワーと勇気もらっています。

**●大田市の魅力について**

琴ヶ浜のような綺麗な砂浜や夕日スポット、三瓶山の自然、温泉津の温泉や大森の町並みなど、挙げれば切りがありません。その日の気分です、ぱっと思い立ったら20〜30分で行けてしまうのは贅沢だなとも感じます。東京に住んでいたら、何日も前から計画して、レンタカーを予約して、それでも当日の天気は左右されてしまうのだから、本当に贅沢です(笑)

**●今後の展望を聞かせてください**

まずは論文を書き終えること。自分の研究を通して、地域の方に恩返しができるばと思っています。論文が落ち着いたら、まだ行けない場所ややりたいことがあるので、これからもつたいと思っています。

## 市長メッセージ



今年、石見銀山の世界遺産登録15周年の年です。登録日である7月2日や翌日3日には様々なイベントが開催されました。そして、5年後の20周年は石見銀山が発見されてから500年という記念すべき年となります。5年後に向けて、改めて石見銀山の歴史、文化、自然の価値と、大森町に暮らす人々が取り組んでいる持続可能な地域づくりを、世界に発信していきたいと考えています。あまり知られていないことですが、大森町の人口は約400人で減少が止まっています。それは、大森町にある2つの企業を中心に若いUIターン者を多く受け入れ、高齢化に伴う自然減を、社会増とその結果としての生まれる子どもの数とで補っているからです。地方都市である大田市の中の小さな町、大森町の、そこに住むすべての人が、大森町を愛し、町のために取り組む持続可能な地域づくりに注目してほしいと思います。

大田市長 楳野 弘和

この情報誌は定住促進を目的に発行しています。

発行/大田市役所政策企画部まちづくり定住課 ☎:0854-83-8029 FAX:0854-82-5885  
〒694-0064 島根県大田市大田町大田口1111番地 E-mail: o-tiiki@city.oda.lg.jp